



孝
 子
 道
 義
 集

多 9
 1.409
 3 止



明子多
稀 1409
卷 3止



志遠海ふ連たりのく
河は思ひのまゝ事な
大河をたぬるに
舟のまゝに舟をたぬる
舟のまゝに舟

舟のまゝに舟

德

子

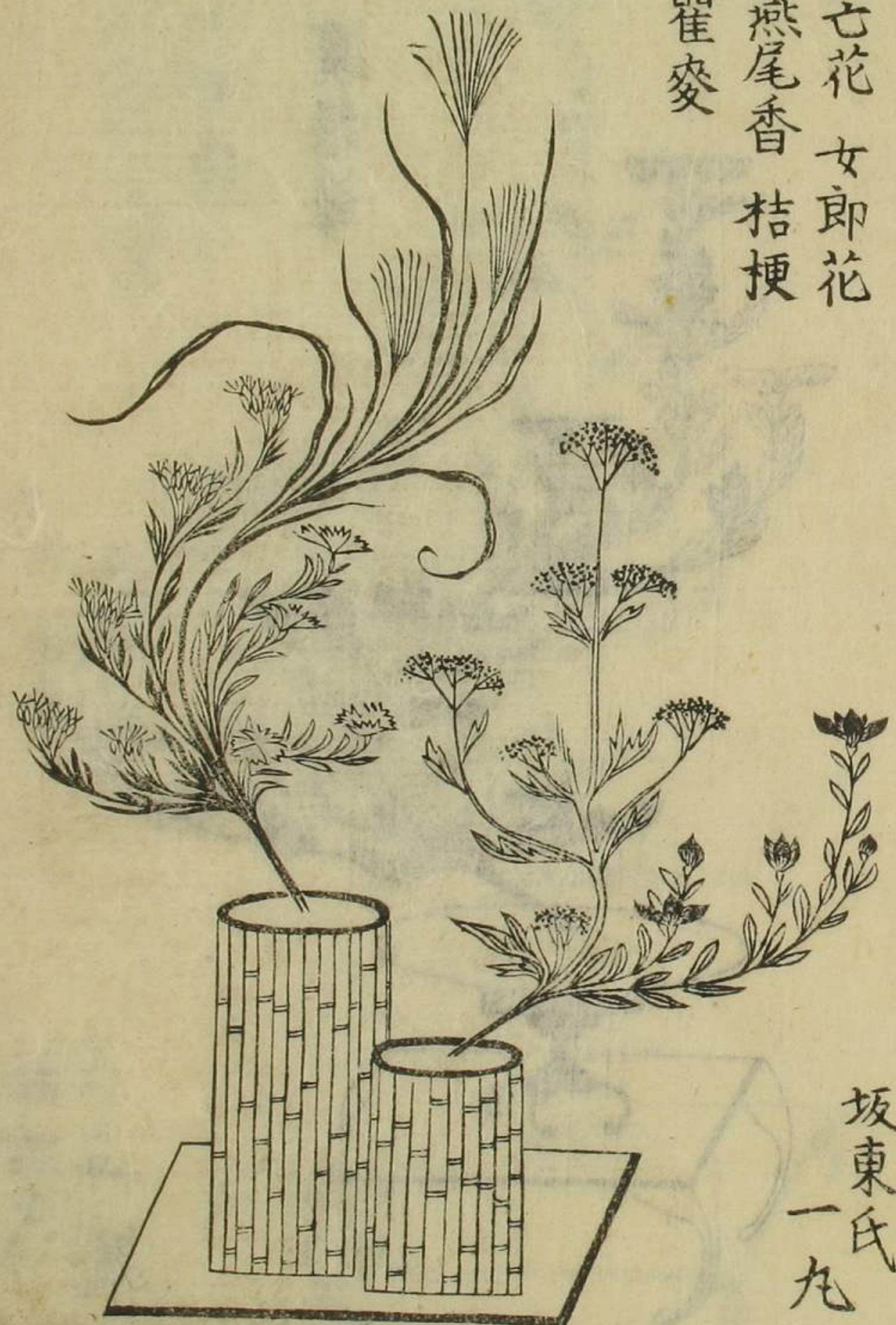
蝎子

心

丸

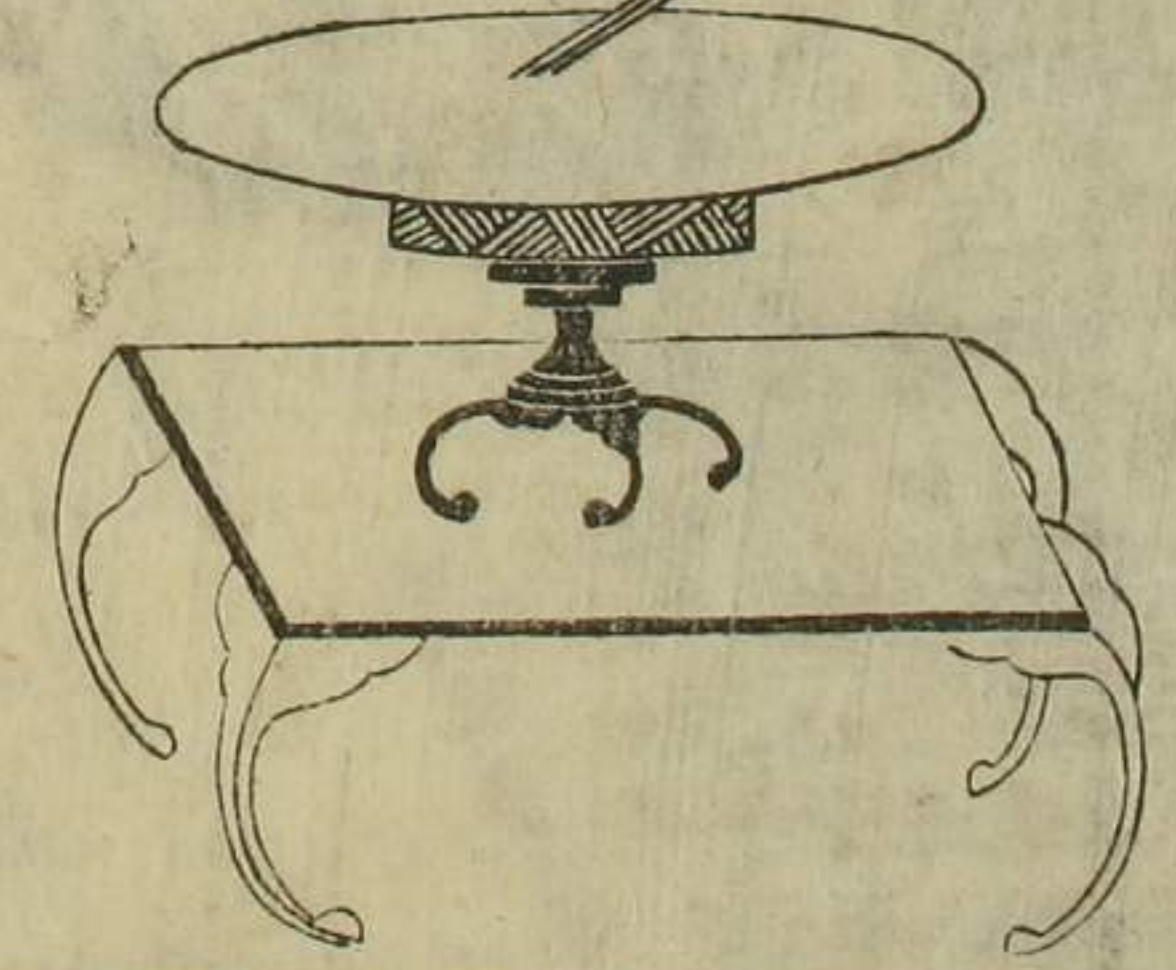
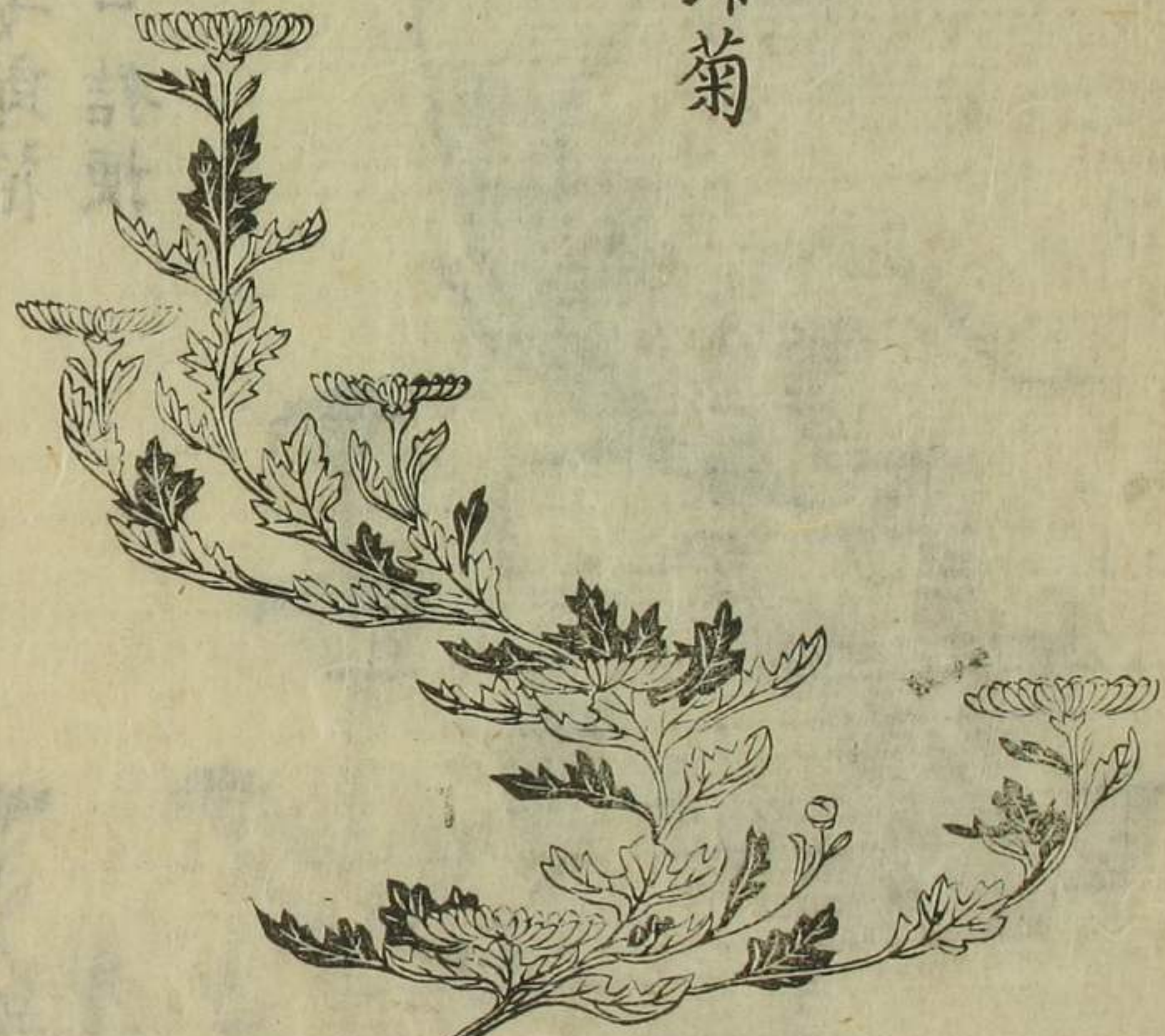


芒花 女郎花
燕尾香 桔梗
瞿麥



坂東氏
一丸

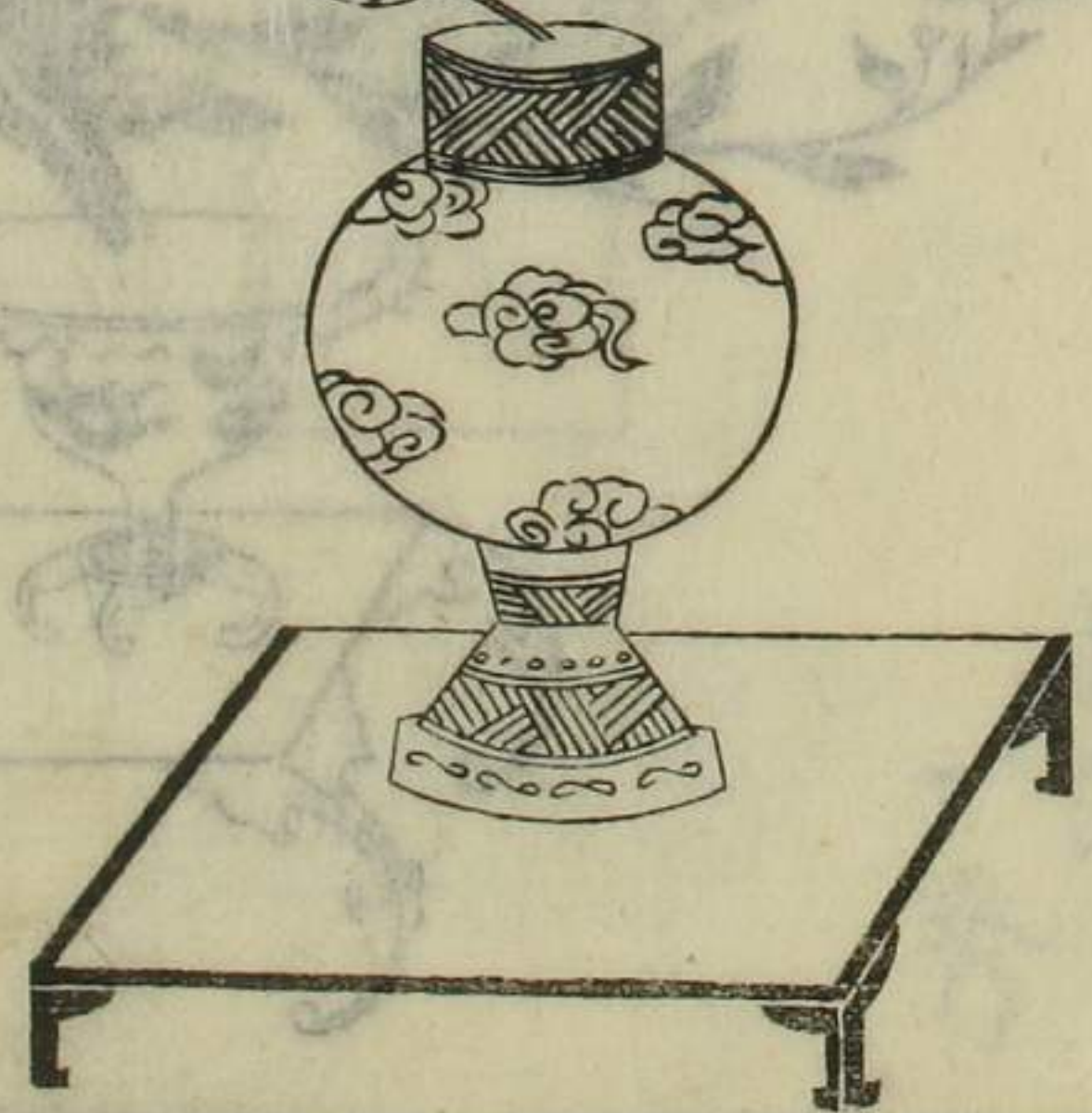
濱錦菊



神田氏
一笑

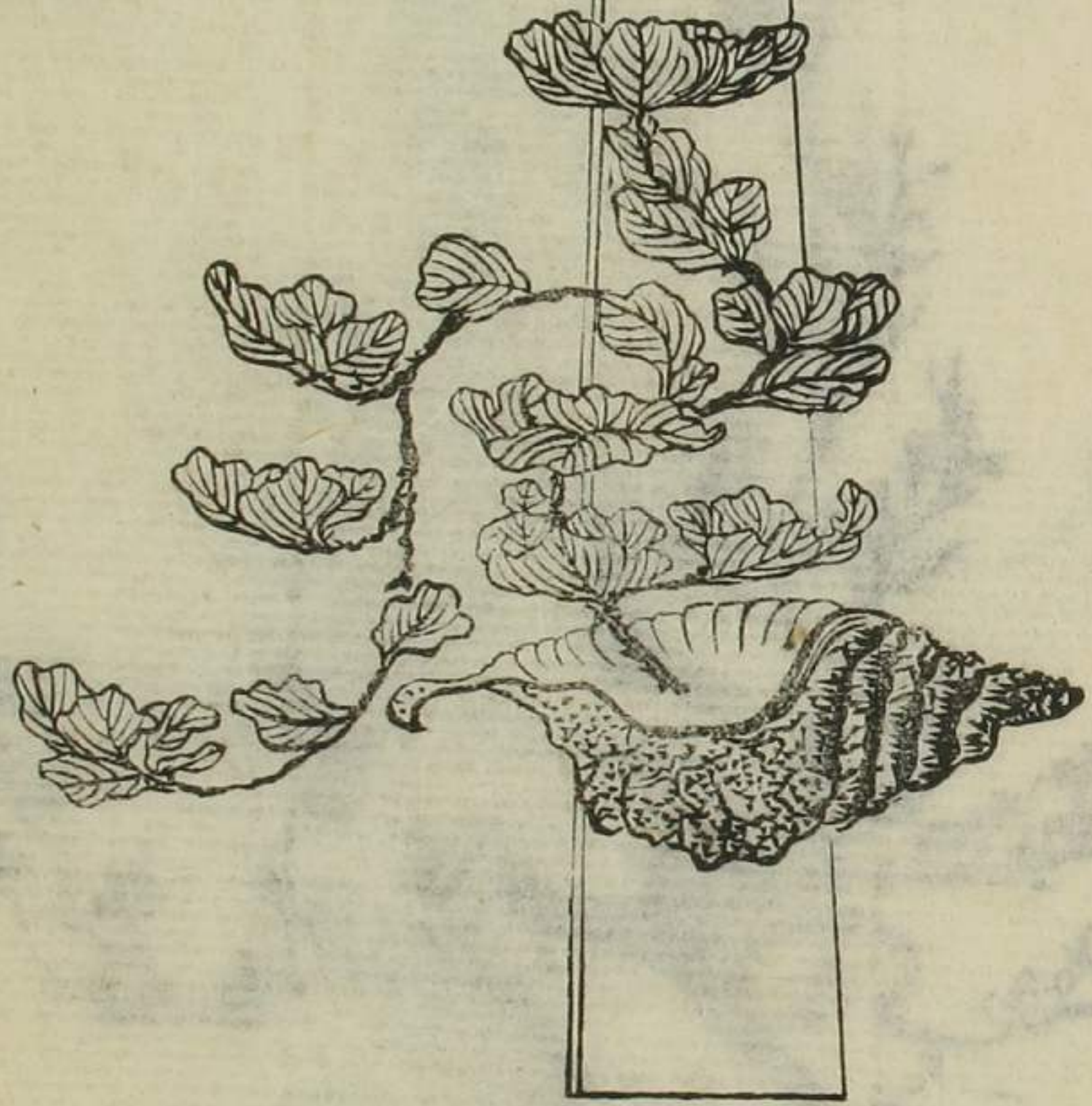
丁子菊

スガレ



鳥海氏
田中一潮

葉牡丹



林氏
一秀

葉牡丹

四

梅嫌
加賀白菊



田中氏
一沖

意匠下

三



菖蒲

藤平氏
一延



彼岸櫻
木爪
雁足

一倉

林氏

養子柳
百本



上州高崎
田中氏
森松庵一郷

蔥花



同所同門 藤野氏
青雲庵一鳥

馬蘭
小菊



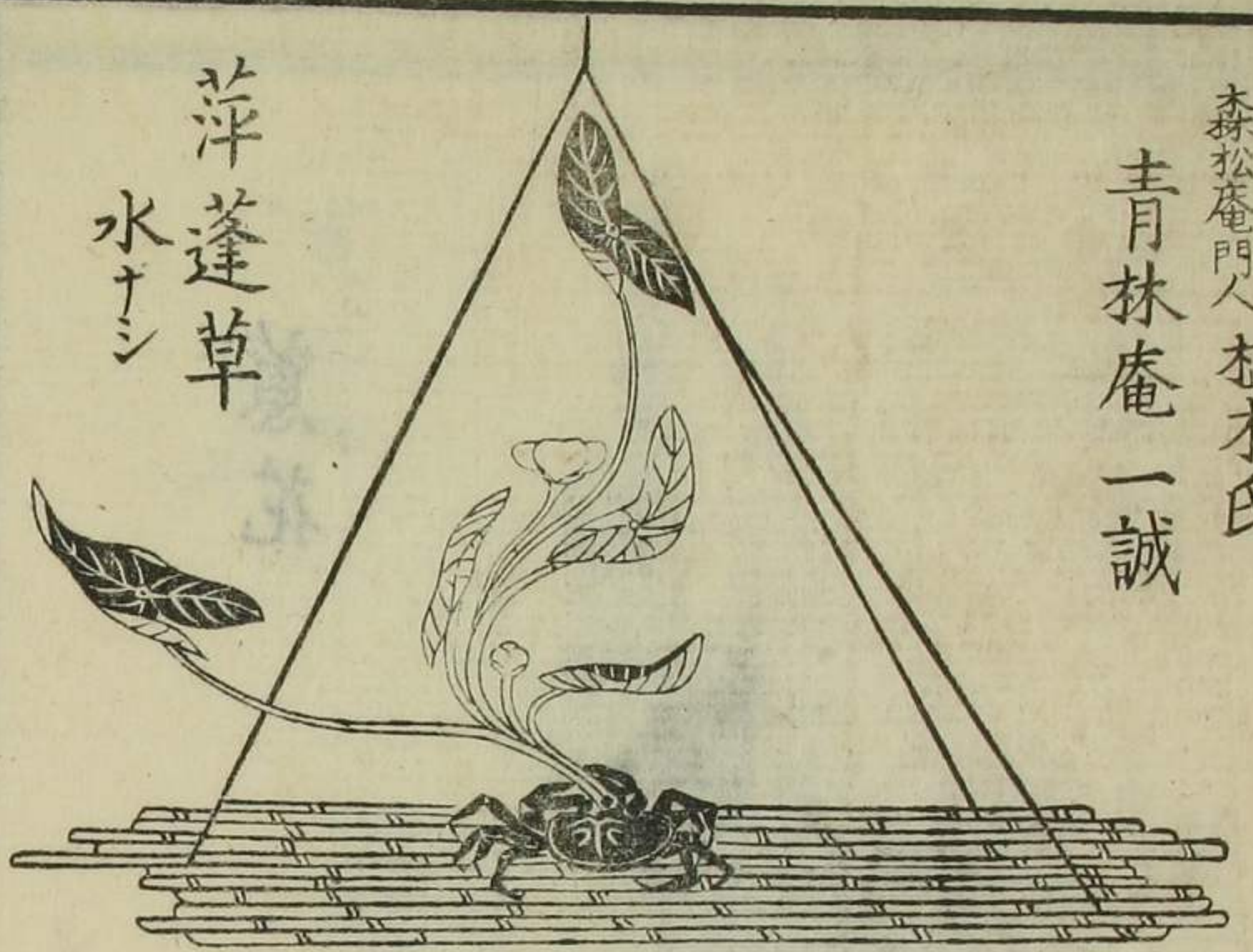
亥子柳
梅嫌
拍槓

室岡
青草庵一雄

花

三

萍蓬草
水ナシ



上毛高寄
森松庵門人
青林庵一誠
植木氏



青蘆
枯蘆
澤三ッ葉

同所同門 橋本氏
青喬庵一江

花

三

濱錦菊



上毛高崎
森松庵門人

小澤
一立日

馬蘭



羽州野田
嶺松庵門人

奥山氏
龜溪

同門人
山本氏一鶯



花菖蒲
山丹

古翠丸
入一精

水仙



藤松庵一伊

伊藤氏

佛頭菊



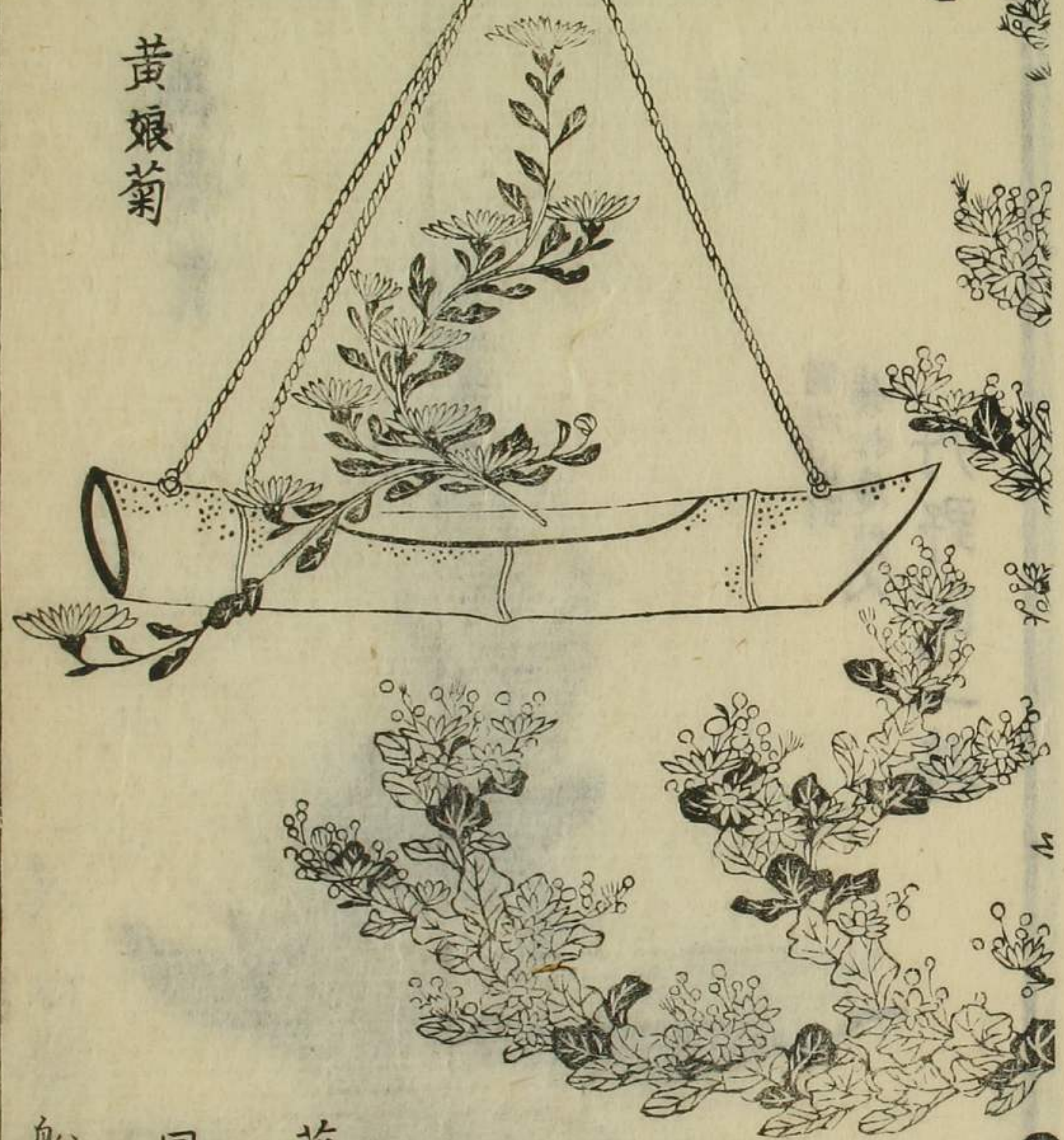
藤松庵門人一靜
吉澤氏

黄娘菊



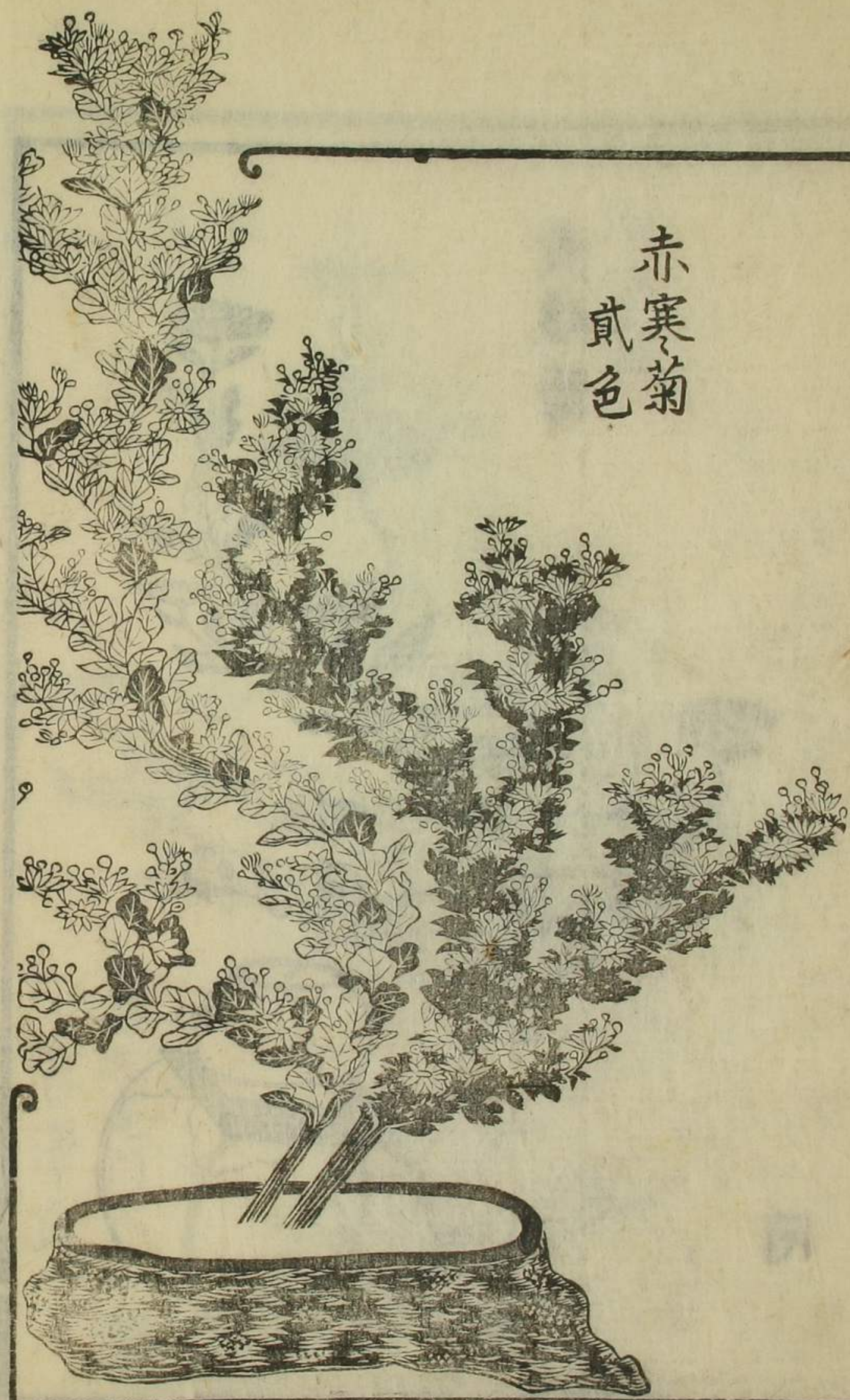
月

黄娘菊



藤松庵門人
一魚
同門人
伊藤氏
船
一輝

赤寒菊
貳色

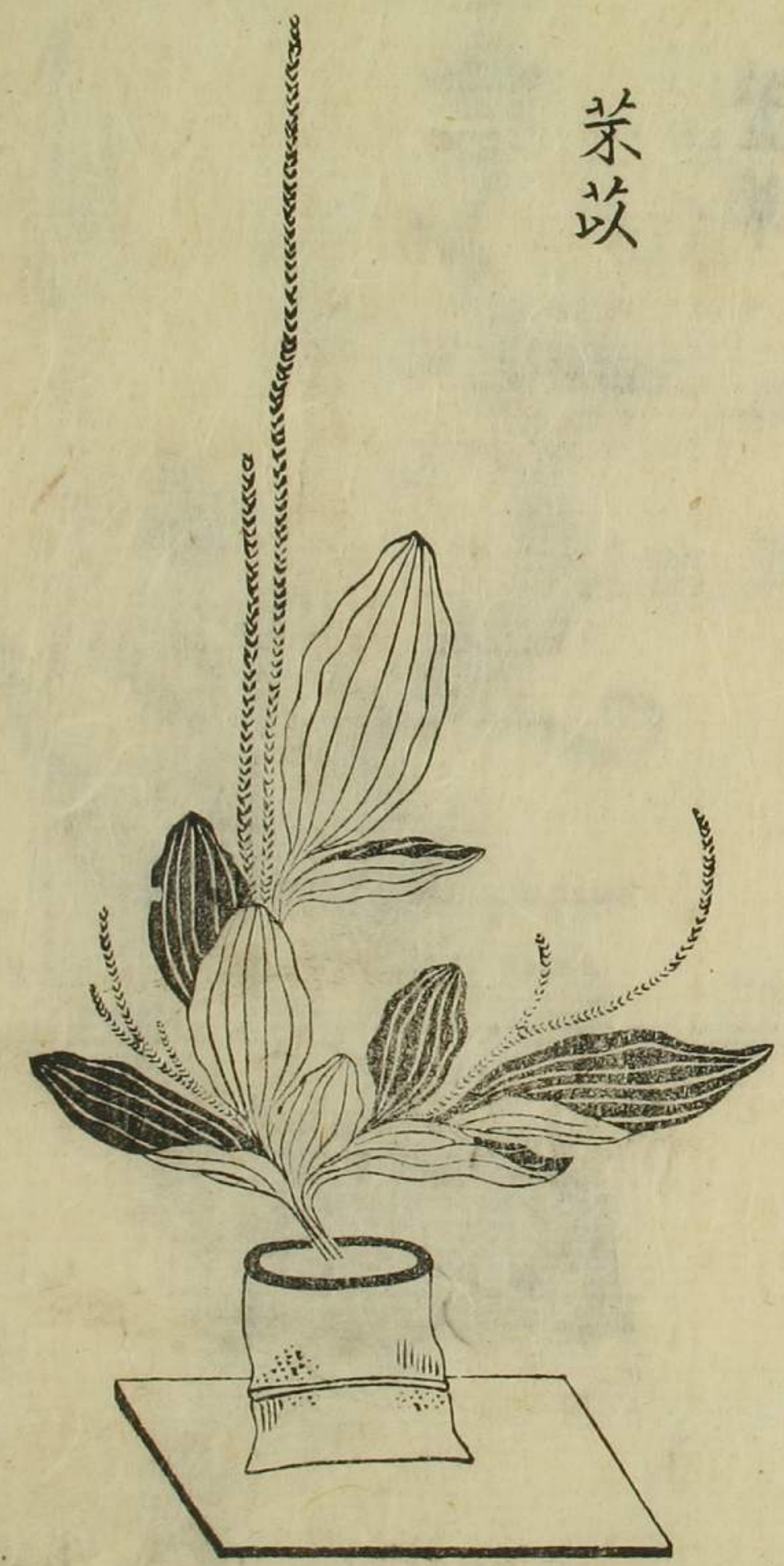


萬年青



羽州山形
嶺松庵門人
丹野氏一遊

茶苡

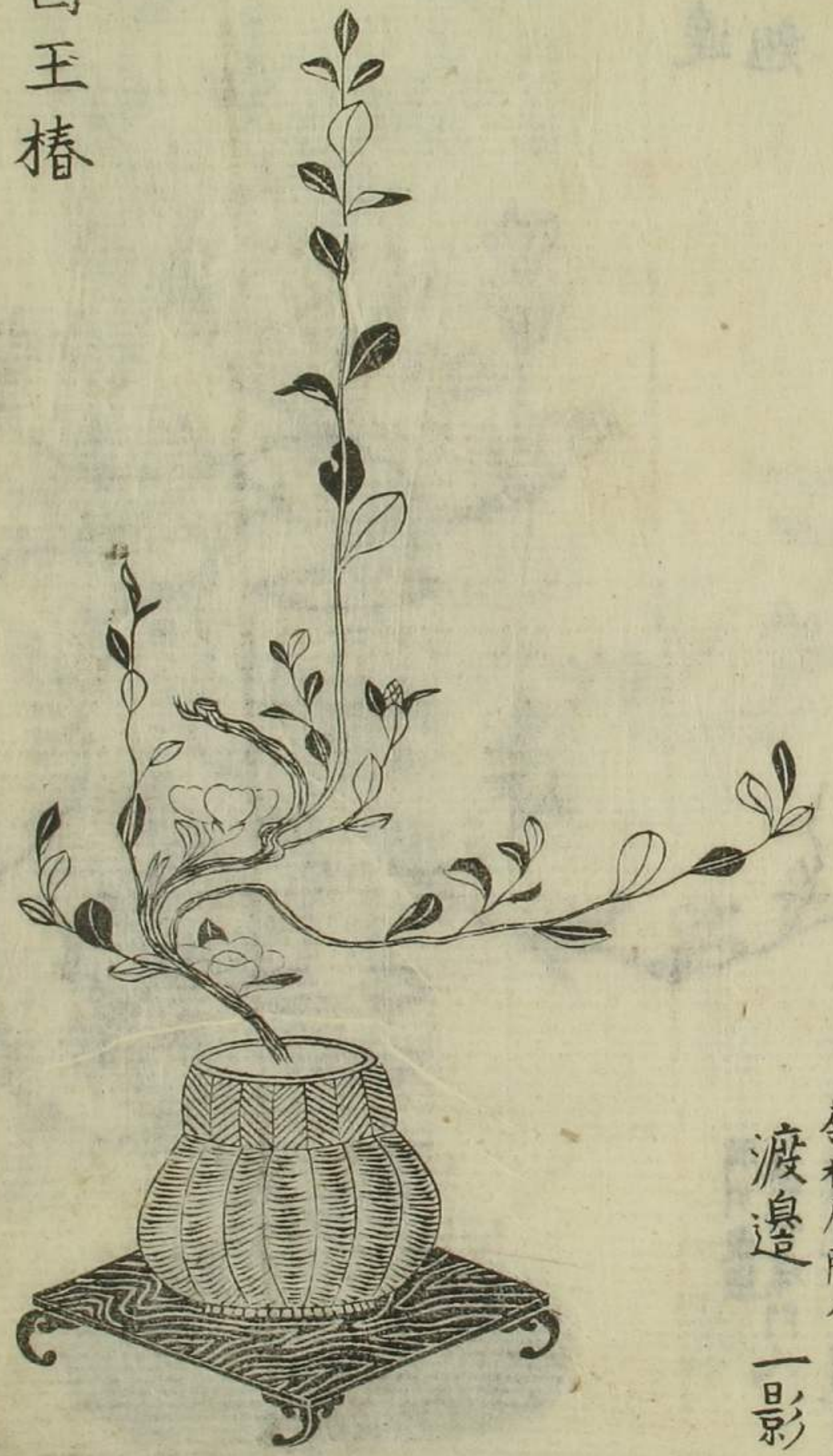


羽州
嶺松庵門人

小山田氏
龜瀧



白玉椿



羽州墨沢
嶺松庵門人
渡邊 一影

意

十四

馬蘭



羽州山野邊
嶺松庵門人
小松氏 一鳳

意

十三



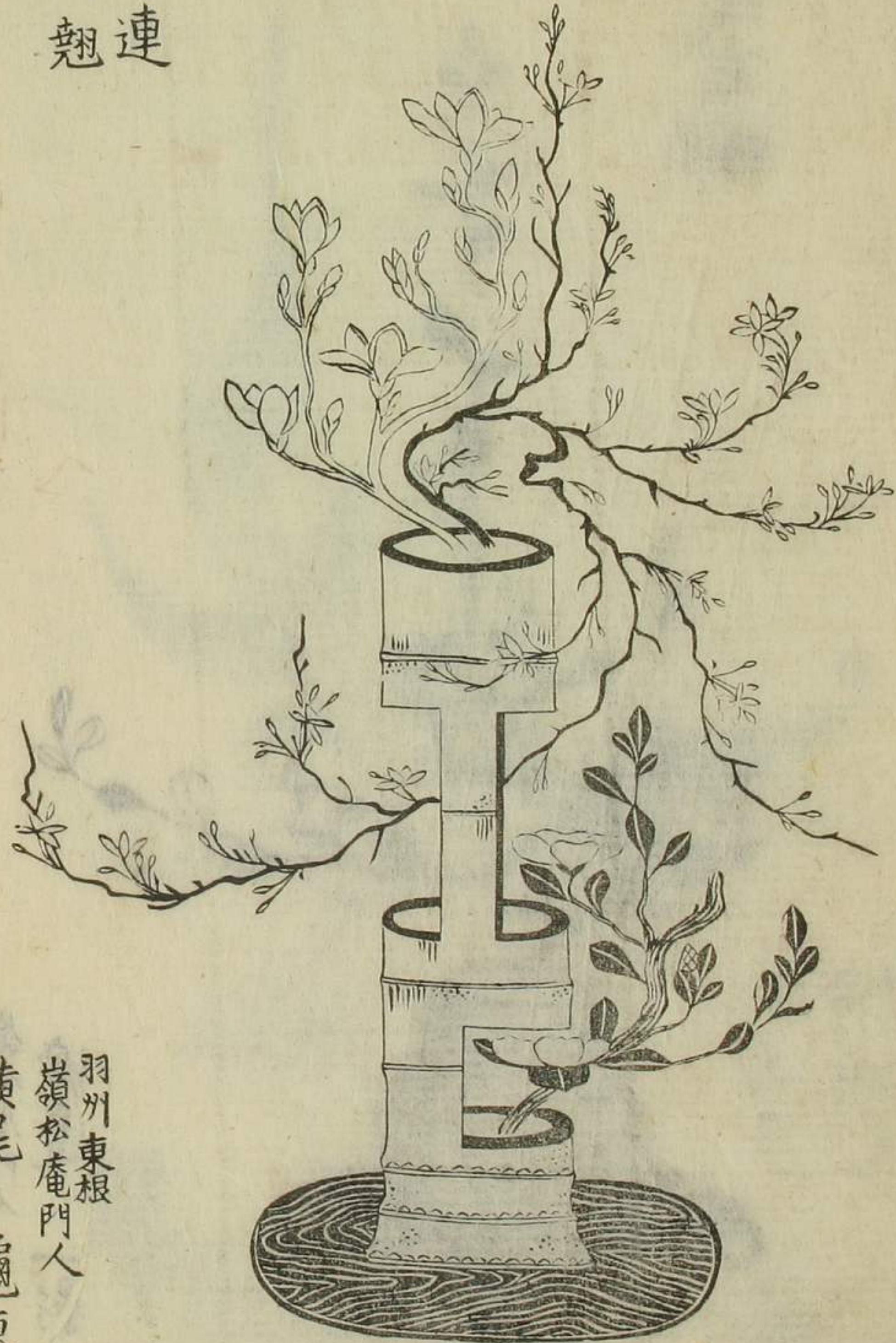
與白菊
鶴九菊

羽州山形長岡氏

一萌

一五

木連
連翹
椿



羽州東根
嶺松庵門人
横尾 龜東

一四

雷電菊



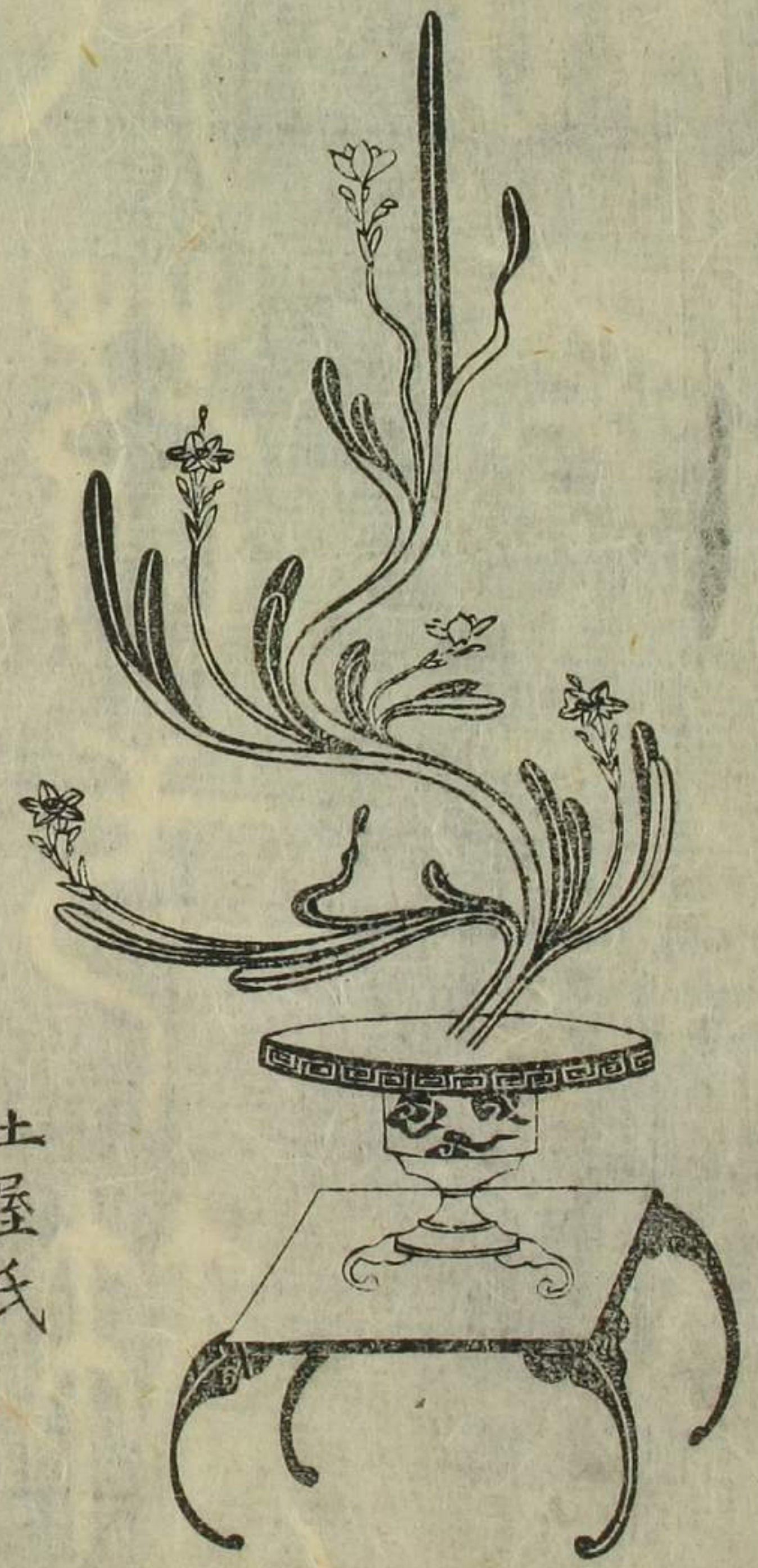
蘿松庵一峨
土屋氏

茂
芬
芳
林
如
多
音
夏

蘿松庵一峨



水仙 五元



土屋氏
羅蔥庵一机

宝之市菊
燕子花



志賀氏
一糸女

羅松庵門人
一尾女

纏枝牡丹



羅松庵門人
一湖

白牡丹菊



高山氏
庭蔦庵
一濤

濱錦菊



太田氏
蔦松庵一指

興白菊



高山氏
庭蔦庵
一濤

福壽草



里松庵一壽

○流祖小堀遠江守藤原正一

從五位下朝散大夫
孤蓬庵 宗甫

蓬雪 宗甫男 大膳正 政俊
鶴髦庵

正圓 正玄二男

一宗 宗甫弟 權十郎 正尹

一政 永井氏 信濃守 信齊

正玄 黒田氏 白鷺庵

宗可 佐間氏 將監 真勝

一蓬 正玄男 正悦 樹樂庵

一舟 船越氏 伊豫守 遊喜庵

由悦 正悦男 花茶々庵

一鑑 加賀爪氏 甲斐守 名月庵

一齊 森氏

不二庵

一朝 藤村氏

烏聲庵

一甫

不撰庵

一澤

不存庵

一翁

春秋庵

一華

自然庵

一葉

春秋軒

一枝

新日庵

一景

春艸庵

一賀

齊藤氏

榮松庵

榮松庵門葉

鶴岡氏

里松庵一壽

初學心法

孤蓬庵宗甫君之當流の元祖也。御律以
政一と稱し給ふ故に其流を酌人との字と表懐し
用ふとあり。ひん就中授受の心流と得給ひ
諸先哲の右に記しあり。近來柳菴以業と
さる人後ふ一の字と受ふ事を知り先哲の稱
知りて其稱を冒しと志し其恭敬と失ふ者
多し。若し若志のて龍名やといふ是亦尾龍の甚敷
りのたより我門葉小遊りん人ともいふは

庵とあり

栢華の草木の天然と失つゝ其性もあつゝひそ
徳柔一人の眼を悦びし先師傳まは法といひ
得てはくぬさ然れ我はたゞ庵号一号と用ひし
然るに一庵とてたゞ世人はかゝるものあり
本意たゞ一庵あり世に師門を蔑如し罪は
先哲も得く猶庵号と稱し私に流派をたゞ
人と欺と世人も又詭つてわづら師志をわづ
中興ありとて人をもわづら師の庵号を表徳

其儘受て二代之師といふの類もいふありや
風雅の道はあひて殊にやむとてや醫業の
扁鵲あり射術小翠あり又冶工の類も同名
龍名の例は多しやとて詩歌連体茶事といふ
こと師の名と龍名の例我のことは是とていふ
一壽の傳はるなり 宗甫君の流たりのりわづ
たむいふ流祖の名字益命目ふ至るも皆知
かゝるものと常とて是處たゞとて
先師の恩とあつゝあつゝ如斯ありとて

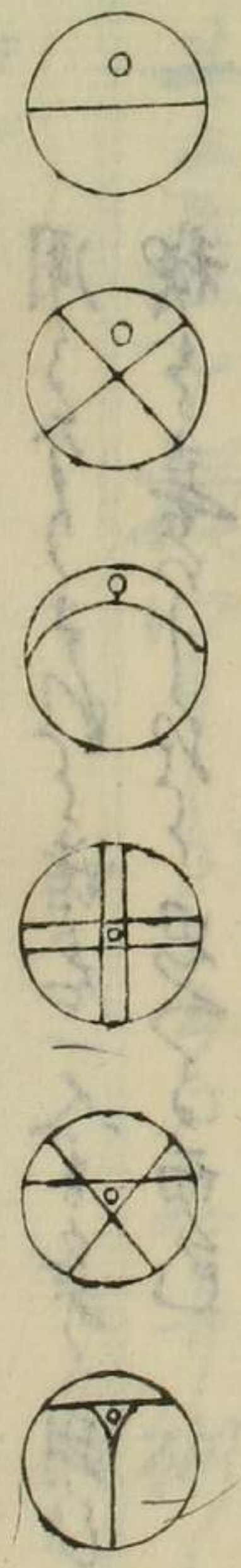
業尊く〜

道は古今たゞ業は新舊何れも常た有り徳は古
 古を好む時宜と斟酌せざるは死法あり古を
 本とて時宜と有りて轉化する是は活法なり
 花配りのこと凡木莖と剪つて三又と作り瓶中に
 施して根と固むること舊くされ夫とて皆固
 なるは得ざるを得ざるは三年學ぶ
 其業を得ぬ人多し一壽是と憂ひ百ありて
 是を考へらるるは文化幸未の思ひ

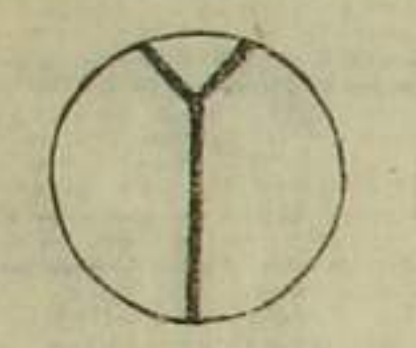
得ることあり其術の莖と裁割し中を削りて
 藥研の形ちりて試み瓶中小配りて花枝と挿じ
 心の儘も固の得る志もあはれは是と藥研配
 名付く人ありて其の世の入りたるはぬのり
 饑笑くやうは真と夫の草と前よりせとく
 何れありあそり斯く此法を用る人其便り何れ
 りて術の達し安きを流る當流りたるは他流
 りて此法を用るもあはれは此一壽一壽此
 道よりひては功と後世に遺せしむるは

○草木の繪葉を其性よりてたうひあり
 又花壽と保くもいれ其傳を多く
 して今もめを柳やれ風致余り自得
 ざり梗概を記して條目と左より
 一草木共最初は真と云ふ事一蓮花洋蓬草即柳並水あり挿事
 一竹の枝と養へ并割竹下節切竹水の事一燕子花水の事
 一水仙の花板出して遣ふ事一同葉平は揉み并四枚葉別々遣ふ事
 一水仙猿猴立並内の葉と長く遣ふ事
 一馬蘭逆真と云ふ並小葉と遣ふ事
 一草木花葉枝不相應の事

花配之事



花配は諸先哲の工夫より各々名ありたり
 記さる傳を受く知る也
 配と嘲りたまふ諸君得意のたう大昔より花配り成
 國々々看る所あり



流祖遠州公の三股配は寛永年中の工夫なり
 木の三股と切細口物は重なるて用所あり

子...
 子...
 子...
 子...
 子...
 子...

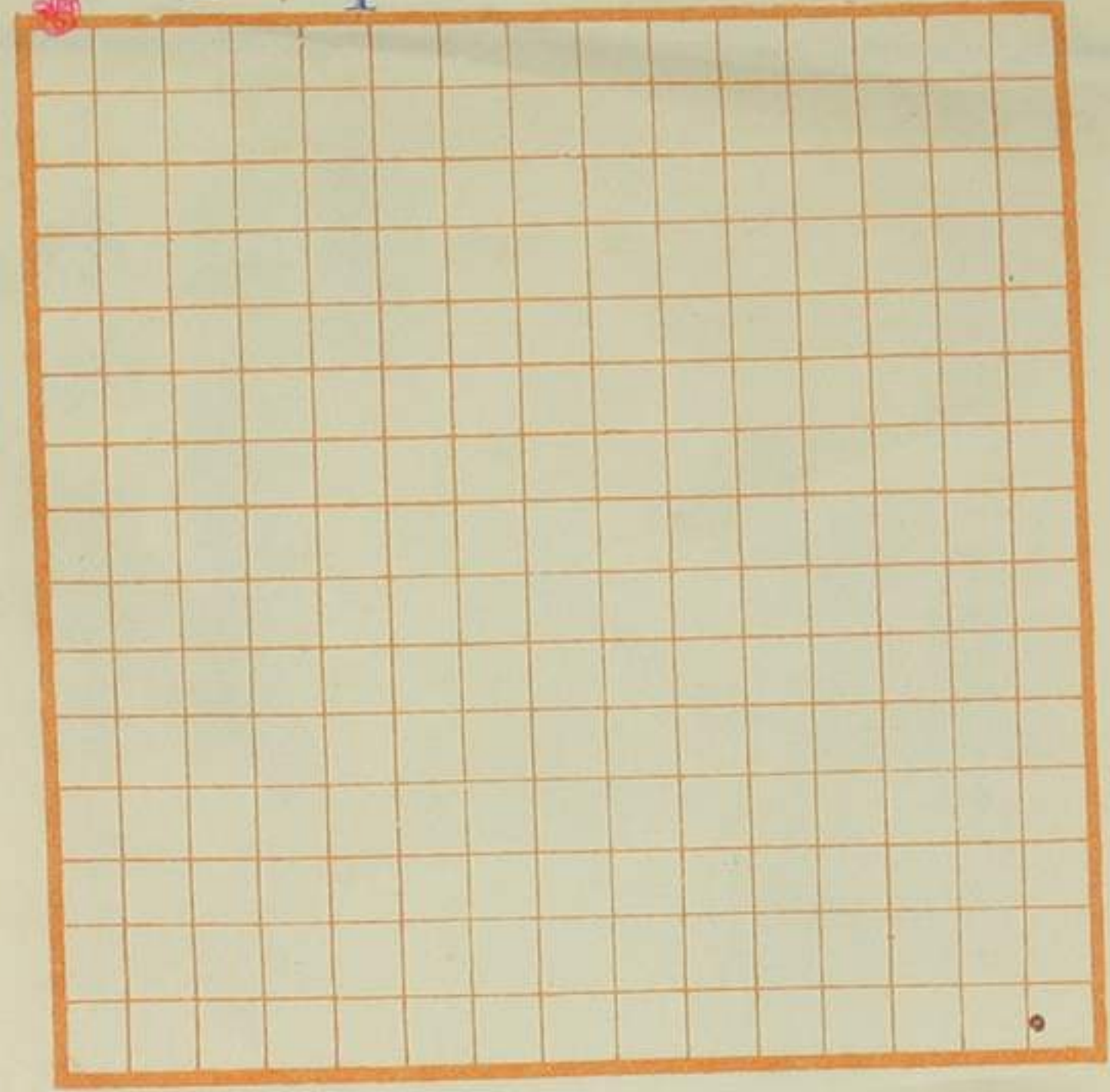
文政六



河生

此...
 此...
 此...
 此...
 此...
 此...
 此...
 此...
 此...
 此...

壬午年七月



龍潭畫

東郊海子山房住

里松庵一壽撰



龍潭畫



扇出

扇出

御...
...
...

東郊海子山居住

里松庵一壽撰

五...
甲申初...



龍潭畫



再白

菊一百拾五輪

水仙五拾本

馬蘭百枚

此圖後篇出

